

I 前回の確認。

1. 主の祈りは、主は教えられた世界で最も素晴らしい祈り。すべての祈りの要約、骨格が含まれている祈り。※証し。それぞれ。「天にいます」=天と地を造られた神の偉大さを示す。
2. 「私たちの父よ」=主を信じ神の子供とされた私達への霊的な親としての深い愛を示す。
3. 祈りの構成、順序として、最初の3つの祈りは、願ひ事の前に、神を第一とする祈り。「神の国と神の義をまず第一に求めなさい。そうすれば、それに加えて、これらのもの（私達に真に必要なもの）はすべて与えられます」6：33。後半の3つの祈りは、私達の願ひ事。まず神への礼拝、感謝、次に正直に願ひ事を奉げる恵みを教える別の箇所→「何も思い煩わないで、あらゆる場合に、感謝をもってささげる祈り（礼拝と崇敬を表している）と願ひによって、あなたがたの願ひ事を神に知っていただきなさい」（ピリピ4：6）。悩みの時は、神を、神の恵みを忘れやすい。だから意識的に、まず神を崇め、神の恵みを数え、神に感謝し、神の臨在に満たされる中で、深い悩み、正直な悩み事、願ひ事を祈る事は幸い。神は、その祈りを喜ばれ、応えられる（はい、いいえ=拒絶ではなく、別の良いものを用意しておられる。待ちなさい=あきらめないで祈り続けなさい）。※多くの手紙やメールの最初に「主の御名を賛美します」と記される意味が、この祈りの順序にある。クリスチャンになりたての頃は不思議でしたが。

- II 「御名があがめられますように」：9。私達が、主の祈りを祈る時、今、自分は、①偉大で②愛に満ちた神、御父の御前にいる事を深く自覚して祈る事が祈りの大切な秘訣。御名が「あがめられる」とは、神の御名を、聖別する、崇拝する、神聖にし、神聖に保つという意味。「御名」とは？当時のユダヤ人が、神ご自身を指すのに使った言い方。旧約時代のユダヤ人は、神の威厳、偉大さ、神聖さについて鋭い感覚を持っていた。それで、「エホバ（ヤハウエ）」という名を使わない事が習慣になってしまったほど。彼らは神の御名自体が、あまりに聖く神聖で、彼ら自身が、あまりにも小さく卑しいので、その名を口にするのは、恐れ多いと感じた。エホバ（ヤハウエ）という名をそのまま使うのを避ける為、彼らは神を「御名」と呼んだ。それ故、ここでの「御名」は、神ご自身を指す。この祈りの意図は、「神ご自身が崇拝され、神聖にされるように」という祈り。また、神の御名と、その御名が表しているすべてが、人々の間でほめたたえられるように。全世界で、聖とされるように。「御名」とは神についての全部、神について啓示されて来た事のすべての意味。神の御性質のすべてを含めての神、神の本質のすべてを含めての神、これまでに神がなされたすべて、今して下さっている事のすべてを含めての神の意味。神は、さまざまな名で、ご自身を掲示された。「エル」「エロヒム」：神の「強さ」、「力」の意味。「ヤハウエ」：「自存の存在者」「わたしは、有ってある者」（出3：14）。他の誰にも依存しないで永遠に自存する方。「アドナイ・イルエ」（主は備えて下さる）。「いやす者」（出15：26）。「アドナイ・ニシ（主はわが旗）」勝利を得られた時。（出17：15）。「主は平安（アドナイ・シャロム。土師記6：24）。「主は私の羊飼い」（詩篇23：1）。「主は私たちの正義」エレミヤ23：6。「主はここにおられる」（エゼキエル48：35）。このような名は、神ご自身の本性、本質、ご性質を掲示している。ある意味で、主の祈りの「御名」とは、これら全部を言い表している。ここで主が教えておられる事は、あなたが、そして全世界が神をこのような

方として知るように、全世界が神をこのように崇めるように祈りなさいという事。これは、神の尊厳と栄光を求める、燃えるような深い願いの祈り。四福音書を読む時、これこそ正に主イエスの熱心な切望であった事が分かる。ヨハネ17章の主イエスの大祭司としての祈りの中に、「あなたがわたしに行わせるためにお与えになったわざを、わたしは成し遂げて、地上であなたの栄光を現わしました」：4。「わたしは、あなたが世から取り出してわたしに下さった人々に、あなたの御名を明らかにしました」：6とある。私達は、神の偉大さ、力、威厳、愛の深さ、永遠、全能、摂理について、理解が浅い事を認めたい。まず私達自身が、今後、ますます、御言葉と祈りと経験により神の偉大さ、愛の深さ、他の御性質を知り続け、御名を崇め、世の人々に私達の生き方、言葉を通して神の御名があがめられるように祈りたい。この祈りは、まず私達が、そして全世界が、神を崇め、敬い、賛美し、礼拝し、ほめたたえ、感謝するようという燃えるような祈り。常にこれが私達の心の最高位を占めているだろうか。主イエスの教えは＝「あなたが神のみもとに来る時、たといあなたが今、非常に辛い状態にあるとしても、しばらく立ち止まって、次の事を思い出し、自覚せよ。神の先行する恵みを数え、神の御性質を黙想し、この素晴らしい神が、あがめられ、礼拝され、感謝される事が、あなたの最大の願いであるべきだ」。「御名が崇められる事」は、人間が神に造られ、永遠の滅びから救われた目的そのもの。

Ⅲもし私達が神の祝福を味わいたいと強く願い、自分の祈りが効果的で価値あるものとなる事を願うなら、この順序に従う事が大切。旧約聖書に何回も「ほむべきかな。わが主」「あなたの御名を世々限りなく賛美します」「主をほめたたえよ」（詩篇144-150）と出て来る。「わがたましいよ。主をほめたたえよ。主の良くしてくださったことを何一つ忘れるな」詩篇103：2。新訳聖書も、まず神を礼拝し感謝し、それから、願い事を正直に祈る事を進めている。ピリピ4：6。それ故、私達が神を知り、神から祝福されたいなら、神を礼拝、崇める、感謝する事から出発する事が大切。自分に関する事を祈る前に、まず、神を崇め感謝したい。神の先行するすべての恵みのおかげで今があり、生かされているのだから。